

## 会社内にある吹奏楽団だからこそ、団員に絆が生まれる

音楽大学を卒業後、ヤマハ吹奏楽団に入団して8年半になります。サブマネージャーには4年前の2007年に就任しました。母親がピアノ教師だったこともあり、幼少期からヤマハ音楽教室でピアノを習い、中学生まで続けていました。

今担当している楽器「ユーフォニアム」に初めて触れたのは、小学4年生の時です。当時通っていた小学校には吹奏楽部があり、活動が盛んでした。私は、ピアノを習っていたこともあって、自然と入部をしたのです。



小学生の時から、音楽で仕事をしたいとずっと思っていたので、音楽大学に入学しました。大学卒業後、自衛隊や警察などにある音楽隊に入りたかったのですが、募集がありませんでした。どうしようかと思っていたときに、著名なユーフォニアム演奏者が、ヤマハで募集していることを教えてもらい、試験をクリアしてヤマハに入社することができました。

現在の仕事は、管楽器を中心とした楽器のカタログや Web サイトなどでの販促活動と、毎年夏に浜松市と共催している浜松国際管楽器アカデミーの運営事務局、それとヤマハ吹奏楽団のサブマネージャーとしての業務です。

朝から会社に来て、終わったあとも社員と夜は練習。週末は演奏会を行っているので、生活のほとんどがヤマハという感じですね。でも、それだからこそ団員の間には絆が生まれ、お互いに思っていることを言い合える関係になっていると思います。

他の楽団からは、会社内で仕事の時間に練習を一緒にやっていると見られていますが、団員は他の社員と全く同様に仕事をしています。ですから、残業が多くて人が集まりにくいのが難点ですね。そして家に帰れば、家庭のこともしっかりやらなければなりませんから、時間の使い方は工夫をしないとダメですね。

## 世界で唯一、楽器を作って演奏する楽団

ヤマハ吹奏楽団は3つの役割があると思います。1つ目は、会社の福利厚生としての役割です。社員が仕事を終わった後でも有意義に過ごすために、会社がバックアップしてくれています。2つ目は、対外的なイメージ促進という役割です。「ヤマハ」という名前と「浜松」という名前を背負っていますから、名に恥じない演奏をしないといけないですね。3つ目は、職場バンドの中でも「音」を扱う企業として、音楽を通じて社会に貢献する役割です。御存知のとおり、ヤマハは楽器メーカーなので、団員の8割が管楽器を実際に作る仕事に携わっています。ですから、どの楽器も団員の誰かが関わっていますし、遠征先で楽器の調子が悪くなってしまったら、その場で修理もします。



サントリーホールでの演奏風景

楽器を作って、なおかつ幅広く演奏活動するという楽団は、世界でも我々ヤマハ吹奏楽団だけではないでしょうか。

## 浜松のクラシック音楽文化の発展の手助けになりたい

地域貢献に対する意識は高いですね。浜松市内では、年2回の定期コンサートの他に、JR浜松駅前で行われているプロムナードコンサートや5月の浜松まつりの吹奏楽パレードに参加しています。浜松市民に愛されるような団にしないといけないと思っています。

また、浜松市は、「音楽」「楽器」というイメージを持たれる特別なまちです。そのまちから来て演奏するということは、お客様も大いに期待しているわけです。その期待に応えられるような演奏をしたいと思います。

賞を取ることが目標ではありません。自分達が今出来る最高の演奏を披露することで、お客様に喜んでいただき、その結果として賞が取れば、もちろんうれしいことですが、団にとってはそこまでいく過程こそが重要だと思っています。吹奏楽団はチームですから、団員間で意見を交わし、チームワークが高まっていければと思います。団員には、二十歳そこそこから、定年退職間近の人など、幅広い年齢の人がいます。それらをまとめていくことも、サブマネージャーの重要な仕事のひとつだと思っています。

運営に携わっている浜松国際管楽器アカデミーは、自分と同じようなバックグラウンドを持った管楽器奏者を志す人たちが、毎年世界から100人以上集まってきて、世界のトッププレイヤーから1週間近くレッスンを受けるものです。そのお手伝い出来るということは充実感があります。未来の音楽家を手助けする活動をずっと継続して、一人でも多くプロの演奏家になってもらい、ゆくゆくは浜松で演奏会をしてもらうことで、浜松のクラシック音楽文化の発展の手助けになればいいと思っています。



浜松国際管楽器アカデミーのレッスン風景

我々が演奏しているのはクラシックですが、どうしても敷居が高くて入りづらいというイメージを持たれやすい。例えば、会社の昼休みやちょっと時間があるときに、ホールへ足を運ぶとコンサートをやっていて、会場はいつも満席になっているというように、日常の一部になっているといいですね。今は、クラシックのコンサートは非日常的なものという印象を持たれる方も少なくないかもしれませんが、堅苦しくならず多くの人にとって日常をもっと華やかにさせる存在になってくれればと思います。